（三十日夕刊）

磐城新聞

休刊 大祭日翌日 第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（一行平談指定廿錢増）
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

政治の合理化

植田 佐藤久

四千年の昔大哲學者釋尊は世の無常を感じ如何にもして苦に惱める諸人を救はんとして一生を通じ艱難苦行を積み大いに勉學に努めしが彼も又人間である限り徹底的に目的を達つし得ず寂滅してしまつたキリスト又同じである、其れより幾多の學者に依つて研究は續けられてをるけれど人生苦から解脱の道を全くしたものはないのである人生あれば食慾をこり、慾念起れば惱み起り稍々長じて學生となればメンタルテストで惱み上は王候下は匹夫野人に至るまで（生病老死）の四苦による四苦八苦は免れぬのある巨萬の富を積み位人身を極しと雖も誰か此の世に病めざる者あらん老いざる者あらん死せざるものあらん。

世の文明は化學の發達をなりよく自然を彿服せんとし人生の幸福を圖れどもそは容觀的の發達で未だ眞理を極める事は出來んのである、そこで彼釋伽は晩年に至り大いに悟る所あり人生の苦は畢て慾より來てをる種々の慾望執着を忘れなば是に釋然とした明るき世けあるのであると説いた於是迷を轉じ悟を開くと謂ふでをるがなるほど如何なる逆行に遭遇するも諦めの一字によつて事に望めば心の惱みはない筈である此のあきらめと云ふことは凡人のよくすべきでない於是あきらめの爲め一つの材料を造つたこれは現在の世に不遇に泣く者は自分の親の時代乃至自分の過去に於て不倫の行をした大罪を犯したむくひであると説いた即ち因果應報はなやみを遁れる一つの教へである。

そこで釋伽の人生觀は大自然を征服し得るといふことは出來得なかつた、大自然より受ける苦のうは諦め所謂見まひ聞くまひ語るまひに依つて解決しようとしたこれは吾人の究極に於て生の否定となり消極的であり厭世的である然らば現世に於てマルクスの唯物史觀は肯定されるであらうが眞理は依然として永久のなぞである限り社會問題は紛擾をつゞける事は當然である貴族政治と勞農政治この兩者のいづれが是か非かは暫らくあづかるとして最近思想國難を叫ぶものあれど紛爭は過去に於て缺點あれば起きるといふ原則に依つて紛爭は進歩への第一歩であると斷定したい。

アメリカンの南北戰爭明治維新の爭ひ何れも進歩への端境期であつた

國民のコンモンセンスは著しく進みこゝに矛盾を説き明るく正しき政治を望む亦久しく反對の説たりとも之を咀嚼し取捨選擇をあやまらず憲政有終の美をなさんこと吾人青年の覺悟であらねばならぬ。

蟲の音を聞きて（下）

やなぎり生

私は机にもたれて、今日の晝休みを物思ふて居る。暗い心をなほ暗細の世界に導くやうにシト／＼と細い初秋の雨が、今や伸びやうとする大根の葉に枯れて散るゝに間もないやうな硬ばつた桑の葉へと降り續いて、かすかな音を殘して居る

隣家の鷄か聲高に鳴いた後にクヽヽヽツと雨蛙が物悲し氣な聲を立てたのみ、ひつそりと靜まり返つた雨の日の晝だ

苦惱は生と並行する私は現在の生活のすべては苦惱と煩悶によつて充たされて居る

片戀の君の幻に惱まされゐる

拂へど、追ひど、去ることなき彼の女の幻影にいたましくも傷いた私のこころは、矢張り、間斷なく彼の女の幻影を追ふて、彼の女の愛を求めて居る。

歎して居る時の多くは彼の女を腦裡に描いてゐる時である。彼の女を偲ぶことが私の幸福な時間であり、彼の女を想ふ時が苦惱の時である

彼の女に未だ惱める心の告白のなかつた以前は、此の苦はあつてもなくてもいゝ樣に思はれた。否寧ろない方がましだと思つた。だが現在、彼の女を失つた私は、尚ほ此の世をすつかり見捨て得ない。生の執着であらう。又彼の女が吾胸にかへる日を待つて居るかも知れない、未だ私の心からは彼の女は少しも離れて居ない、却て力强く私の心に彼の女の姿か印せられて來る。

そして心の何處にかまだ彼の女も全然私から離れ去つては居ないやうに思はれる。

確に、彼の女も、全然私を忘れては居ないであらう

私は來る日も來る日も、惱みに充てる日を繰返し、煩はしい日をかへて行きます。

彼の女の吾胸にかへり咲く日を待ちつゝ………。

明日の吉凶
八 十
暦 二月 新月
舊 九 暦 一
日 日

▲一白 多端の日なれども秩序正しければ發展あり▲二黒 午前は幸運なれども午後は手を詰るが無事▲三碧 これと云ふ苦はなけれども元氣付かぬ日たり▲四緑 我儘は動搖を生じ易し退き守るが安全なり▲五黄 吉日なれど目上の言葉を用ふれば更に／＼に▲六白 目標とする所正しければ萬事調たるべし▲七赤 注意し居りても親みを生じ物事捗らざる日▲八白 [illegible]の家を一掃し發奮すれば事業大に揚がる▲九紫 右とも左とも容易に決斷の付かぬ迷ひの日

小説 死を超ゆる者 (100)

三上於菟吉作　布施平八郎畫

新らしい味方（一）

「やれ、まあ、おくさんどこへござらしたゞ?たくさんが見へねだと言ふので、ばゞあが大變た案じ申しての、さつきから濱の方へさがしに行つたゞ、まあよかつた、このごろひどく鬱いでいらしたゞから……もしやひよんな……」

と、言ひかけたが同伴のゐるのに今更のやうに氣がついた老人は流石に絶句して幾らか面目なさゝうに附け加へた

「それだのにたくさんは、のん氣にお友達衆のところへ行かれしやつたんだなう」

「私昨晩まんぢりとも出來なかつたから、今朝濱へ早く散歩に出たのよ」

と、とき子はさりげなく言つた

「旦那さんはもうとつくに眼が醒めてゐらつしやるだ今朝早く東京から電報で?十時の汽車で一寸れ歸京になるとかで……」

「おや、さう」

さう言つた時のとき子の顏には言ふべからざる嬉しさが浮んでゐた。從つて來た二人を玄關の方へ導いた

玄關へは女中頭が出迎へた彼の女は底意地の惡い目でじろりと女主人を見上げたが、立派な貴婦人令嬢が連れ立つてゐるのを見ると何にも云はずに低く頭を下げる外はなかつた

「旦那さまに申上てたくれ櫻木の奧樣と、岡田男爵の令孃樣がお見ゑになつたから」と、とき子がいつた

彼女はあの呪はしい吸血の怪物をあの醜い老人を新らしい二人の友達に引合せるのは恥がしかつたが、而し一層此二人の貴婦人を彼に紹介する事は今の場合必須の必要事であつた。金力と權力との外一切を認めないやうな彼を抑へるにはやはり、社會的の位置で壓迫するより外に術はなかつた

成上り者の彼は成金界に雄飛してゐたもののまだ閥の金權は岡田や櫻木のそれに比べては比較にならなかつた

とき子は二人を砂丘を越て海をみ下す客間に導いた

開け放した出窓からは先程彼の女が死を決して立つた大岩も、白い磯浪の中に小さく黒く見えた、その岩を見出した時とき子の身を暗い戰慄が通り過ぎた、三人は白麻のクッションを置いた藤椅子に凭れて茶を啜つたが、と、やがて入口の紗の垂れ絹を揚げて、でつぷり肥つた閥がリンネルの夏背廣にあつ苦しい身を包んで現はれた。

彼の濁つた眼は、昨夜よく眠らなかつた爲めに一層赤く濁つて顏は弛んでゐたその上今朝受取つたといふ電報がひどく惡い報知に違ひなかつたといふことを證據だてるやうに米嚙のあたりに太い疳癪筋が醜く浮かんでゐた。が。それにも拘らずわざとらしいほゝ笑みが厚い唇を歪めてゐた。彼は立上つた未知の兩貴女の前に立つて默つて低く頭を靜かに垂れて

「間でございます」と、とき子はかすれた聲で言つた「櫻木の奧樣、岡田のお孃樣でございますの」

双方はとき子に初對面の紹介を得ていとも叮嚀に双方から低頭したのであつた

相帽と冬帽
モダーンな若人向
スマートな紳士向
東帽製ファー 七、八〇
イタリー製 ペロアー 七、八〇
ウール 一、五〇ヨリ
にツルヤ
平四丁目

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
話電は 三四三番 サシミ

安全第一
諸債券、公債ノ御用ハ迅速簡易ヲモツトートスル弊店ヲ精ニ御利用クダサイ
營業課目
勸業債券 復興債券 公債其他 兩替 金融
質物一般 取扱
多田井商店
平町大工町

素晴しい好評!!
婦人世界 特選（圖案ハ全國一流ノ大家）
壹萬五千圓大懸賞付（空クヂナシ）
足利本銘仙 近代調銘仙大賣出し
婦女界推奬（名作カラ暗示ヲ得タ）
大懸賞々品付（空クヂナシ）
八王子高級 文藝銘仙大賣出し
特長 一、何レモ最高級ノ糸最高級ノ染料 生地ハシナヤカデ非常ニ丈夫デス
一、藝術味溢レル柄行揃ヒニテ秋流行ノ先驅ヲナス逸品デス
一、柄ガ良ク、巾ハ充分デ、丈ガ長ク、而シテ廉價ナ上ニ與味深ク大懸賞景品付デス
詳細ハ店内並ニ婦女界婦人世界十月號ニ發表シテ御座イマス
平町カジ町
吉田屋呉服店
電壹貳壹番

市原醫院
內科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋疾 皮膚病 市原三三男
平町田町本通
（入院隨時）
電話一一四番

新築移轉
耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一（電話五五九）

內科、小兒科 花柳病科 入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

伊勢崎 八王子 足利 優秀新柄銘仙陳列 於階上
十月三日ヨリ七日間
秋冬物新柄特選陳列と実用品特賣
モスリン着尺 モスリン友仙 入選新柄陳列 於新館
三井呉服店

美味にして強壯の効著大
血をふやし肉を肥やす

スッポン飴 一圓 二圓
スッポン酒 二圓
スッポンヘモクロビン錠 三圓
平町五丁目角
山野邊藥局

內科、小兒科（院長毎日診療）
院長 醫學博士 難波睦
內科部長 醫學博士 中西林藏
外科專門
外科部長 醫學士 氏家憲介
毎日曜手術 醫學博士 桂重次
產婦人科、女子泌尿科
產婦人科部長 醫學博士 松枝茂
耳鼻咽喉科
部長 醫學士 井上俊次郎
毎日曜手術 醫學士 渡部貞助
×光線、科物理學的診療科
主任 醫學博士 難波睦
技師 工藤慶造
衛生試驗所 醫學博士 中西林藏
衛生試驗所 技師 小熊英夫
藥局 藥局長 吉本孝平
本院醫事法制囑託 法學士 岡 蕃
本院主管 賀澤忠治
一衛生試驗所（共濟病院內）
一病氣相談所（共濟病院內）
一救療所（共濟病院內）
◎救療を申込るゝ方は當相談所へ御話し下さい
磐城 共濟病院
◎看護婦見習募集
平町電話六四一番

平町紺屋町
吉田眼科醫院

内親王御誕生

三十日午前六時十五分

平町で賀表奉呈

（東京發三十日午前七時着電）皇后陛下には三十日午前六時十五分宮城産殿に於て内親王殿下を御誕生あらせらる

賀表奉呈

平町では御慶事の公報に接するや急旋町會を開き伏見町長の名を以て賀表を奉呈した

行け！北海道へ

石城の移住者

石城郡地方農村の疲弊は全く豫想外で先祖代々傳はつた田地も守り切れず遠く移住して新規播き直しの百姓となる希望が今年の北海道移住募集に依て裏書された本縣では北海道廳から募集を頼まれた時は昨年並の二百五十戸見當としたのに九月十五日の締切迄に二百七十五戸に達し其後も七十餘の申込と書類不備で照會中のものを合せ三百六十餘戸に達する、道廳では從來は締切以後は移住を許さぬ方針であつたが今年は補充を見越して締切後の分も許す事になつたから希望者も喜ぶ事であらう

本紙に摘發され 利權組狼狽

陰謀家の存在は遺憾

民政黨幹部の談

平町會議員中常に利權の獲得に狂奔し兎角町民より排斥批難されてゐる某々一部の者等が例の平〇〇〇〇會社の傀儡となり或る一大陰謀に手をそめ初め既に認可の光明を發見した平町上水道工事起債に對し認可せざる樣政府當局に運動を開始した旨本紙既報の如くである、而して然かも此の事實が本紙によつて摘發公表されるや流石一片の良心ある彼れ等

利權組の 一派は恐がく狼狽甚だしく二十九日午後六時より平町民政黨倶樂部に會合し斯かる秘密の外部に洩れたる以上政黨的に信用を失墜せしむること膠しく之れに對する善後處置につき鳩議するところあつたが右に關し石城民政黨幹部の某氏は語る

平上水道起債に對し反對運動を試み或る陰謀を晝かんとする利權屋の存在は平町民の憎みても餘りある所で慨嘆に耐えぬ次第である、然かし之れ等陰謀家の策動は利權屋側々の問題で決して民政黨の關わりなきは勿論、町會議員で石城民政黨幹部長たる荻原義雄氏は平町永遠の爲め上水道工事の緊急なる所以を力説し若松縣議等と共力比佐代議士を動かし政府當局に熱心運動中で假令へば民政黨の町會議員が此の陰謀に始終するとも夫れは恰むべき利權屋個々の醜惡な問題で民政黨とは何等の關係を有してゐないから誤解なき樣に願ひたい云々

平町本年の 陪審員

資格者激減

平町では九月一日現在における平町内陪審員有資格者の調査を了したので明一日から七日間一般の閲覽を許して確定するが本年度の有資格者數は五百廿八名で前年の五百八十七名に比較すると五十九名一割强の減である、これは不景氣によるものとは言へ年齡三十歳以上二年以上住居、直接國税一ケ年三圓以上納付する有力家が斯くの如く激減してゐることは同町の爲に悲觀すべき一面を語るものである

亂暴自動車 追突

若者人事不省

平町白銀町精米業新妻茂武（三〇）が二十八日午後一時半ころ平驛前を自動車に乘つて疾走中後方より同じく疾走して來た平町田町野崎自動車部抱運轉手小林宗高（二五）の運轉せる乘合自動車に追突され自動車は大破新妻は腦震盪を起して人事不省に陷つたが幸ひ生命には別條なく運轉手は平署で取調中

勿來繭市場

晩秋蠶取引旺盛

勿來繭市場晩秋蠶取引は逐日旺盛を極め一日頃より最盛期に入る模樣であるが廿七日の出廻りは二百五十貫六百匁高値七圓廿錢安値六圓廿錢平均六圓九十九錢であつた尚同町養蠶組合では來月二日同市場に共同出荷を行ふ筈で約二千五百貫であると

田中政友總裁を倒した 狹心症に就て

高久病院長の談

前内閣總理大臣で政友會總裁として時めいてゐた田中義一氏は突然心臟狹心症で倒れました、氏は發作を起して間もなく不歸の客となつたもので、この狹心症が如何に恐ろしいものかといふことを物語つてゐる樣です、右につき高久病院長高久忠氏は語る――「心臟の病症とは、冠狀動脈の硬變の場合に發作するものでその他には大動脈中に動脈瘤が出來たり、大動脈瓣の變化のためにも來ることがあるのですこれの最も

重大 な誘因として精神の大きい感動で、このために心臟が疲れてついに起し易くなるのです、しかし、誰もがこれにかゝるといふ譯のものではなく、その病症を持つ八割位は梅毒から來た動脈炎が原因となつてゐる樣ですこの他に糖尿病、脊髓病、鉛の中毒などから冠狀動脈を硬化さすこともあるのです、その病を昂進させる原因は、酒や煙草、その他の刺戟性のものを喫したり、不規則な生活を續けることで、只さへそれらの

原因 で弱つてゐる所へ非常な心配事で苦惱に陷つたりすると突然勃發して來るのです、で、日常の用心としては梅毒などを驅逐し、野菜食を充分攝り蛋白質のもの、刺戟質のものは出來る限り避ける樣にすべきです、心はいつも朗らかな、長閑な氣分でをれば眞の養生になるので、ひとり心痛めてゐるのが一番惡いのです、發作を起した場合は早速醫者にモルヒネの皮下注射を受けるのが道ですが、それ迄は心臟部に

冰を 乘せ足を暖め胸の下に辛子を張るのがよろしい、この症狀の苦惱は實にひどくこの經驗の人に聽くと、どんな痛みもこの狹心症以上といふことはないとのことで死亡率は八割位で大抵三十歳以上の人です」と

田中總裁逝去

昨日午前六時狹心症で

後任に犬養氏か

（東京電話）政友會總裁田中義一男は二十九日午前五時麹町番町の自邸寢室に於て突然狹心症再發し懸命の手當の甲斐なく同六時遂ひに逝去した、兇報天朝に達すや畏きあたりでは御見舞のぶどう酒一打を賜り侍醫を差遣はれたが更らに男生前の功を思召され正二位特旨を以て位一級を被進旭日桐花大綬章を授けられた、政友會では直ちに幹部會を開き協議の結果十月三日青山齋場に於て黨葬を執行する事に決定したが享年六十七才有爲の材を失つたことは國家の一大損失で後任總裁には暫定的の意味で犬養毅氏に決するらしい

面倒だから見せぬと 不親切な燈臺守

無駄足で歸る小學生

地方民に不評判

石城郡豐間村に設置されてある鹽屋崎燈臺は豐間本村から僅二十分もかゝれば行くことが出來全國の燈臺中一番交通の便利がよいので毎日觀察や見學者が絶えないが黑澤看守長と

部合三人 居る看守達は毎日午前十時午後三時の外は案内が面倒臭いから絶對に見せられないと折角遠くから見學に來た者をも聊かの同情もなく追ひ返してやるので大變に評判が惡いことに鹽屋崎燈臺あるが故に有名になつて居る豐間村の人達は毎日幾人幾十人となく時間外で見せられずに歸る人達からさんぐゝ口説かれるので黑澤看守長等に對しうらめしく思つて居るこれから學校方面の修學旅行期で燈臺看守の大威張時である、過日磯島方面から見物に來た小學生三十餘名が「視察させてくれ」と言つたゝめ看守に怒鳴られ追ひかへされ、引率の先生が考へ直し見學させてくれ」と願つてやつと叶へられたと言ふ話がある、鹽屋崎の燈臺を見るにはこんな豫備知識を第一とするのだが見物の所要時間は十分か二十分位でよいのに之れを面倒がる看守長には地方民も反感を抱ねてゐる

金庫が專門

兩人とも捕はる

（一）石城郡内郷村字宮大橋新一（三）同郡上遠野村小野勝次（二）の兩人が昨年七月頃から共謀して手提金庫專門の窃盜を働き窃取したものは十個以上、窃盜件數二十餘件を主として茨城縣方面を荒し廻つたものであるが二十九日朝平署員に捕へられ目下取調中

潮聲會 九月例會

第一　課題吟　互撰

四、轡虫

京の夜にしてはさわがしくつわ虫　文狂
なゐふるやはたと鳴き止むくつわ虫　同
荒果てし將軍塚やくつわ虫　一夢
近きより遠きがゆかしくつわ虫　同
露草や帽子よせたるくつわ虫　守穗
ガヂャ〳〵の鳴き止んで月松の上　松堂
ガヂャ〳〵や草野の中の小提灯　江亭
くつわ虫鳴き止んで雨氣廻りけり　中納言
月は雲の籠ガヂャ〳〵慌たし　同
虫の音を鳴き壓しけりくつわ虫　晩霞
馬の鈴野に鳴る夕やくつわ虫　閑月
くつわ虫かしましき音の夜もすがら　何鳴
くつわ虫四更の月の傾きぬ　萬袋
くつわ虫行者の留守を軒に鳴く　守穗
山路來て月に聞きけりくつわ虫　瀧堂
くつわ虫廣野をたのがまゝに鳴き　同
馬洗ふ河原の闇やくつわ虫　天仙

五、線香花火

乳離をなぐさむる線香花火かな　文狂
惡太郎が線香花火や猫の髭　同
ひそひそとかこむ線香花火かな　何鳴
草の花に線香花火の燃え落ちし　同
宵闇に線香花火の閃めける　閑月
田舍町線香花火に子等群るゝ　同
親も出て線香花火のまとゐかな　晩霞
よその子の交る線香花火かな　江亭
淸々し線香花火の邪氣拂ひ　守穗
祭の夜を線香花火に更しけり　中納言
そつけなき線香花火や子の恨み　同
鹿の子絞線香花火に袖屏風　松堂
線香花火々々と手を打つ兒　同
暗闇に散り行く線香花火かな　孤舟
病める兒に線香花火の土産かな　一夢
花火線香とりまく兒等が瞳かな　同
線香花火あかるくならぬ家内中　瀧堂
雨の軒線香花火の匂ひけり　天仙

小名濱委員 上京

商港速成運動

小名濱町では商港の復活運動につとめて來たが目下政府は明年度豫算の編成中にあるので是非とも同豫算に繰り込むで貰ひたいと運動する爲め鈴木町長は町會議員三名と共に三十日朝上京した

入山軍快勝

きのう水鐵と野球

水鐵倶樂部と入山クラブの野球試合は二十九日午後二時から入山グランドに於て擧行九對二を以て入山の快勝に歸した

鈴木師出發

小石川會館に

夏井村如來寺住職鈴木積善師は東京小石川傳通院會館主に就任し中央社會事業界に活躍することとなり今三十日午後二時十分平發列車にて上京した

記念塔建築資

平町第一、第二小學校では日本海々戰記念塔建設資金を兒童から募集中であつたが第一は十七圓、第二は二十圓八十五錢、寄附が擧がつたので此の程建設會本部に寄附した

夜逃げ戸締めで 悲慘な平町

之れも緊縮内閣の祟りで

氣の毒な商店街

平町地方の不景氣な事は金融が逼迫してゐる事でも解るが此の不景氣の爲めに夜逃をする者や、借金を踏倒して所在をくらます者が增加して來た、平町二丁目飲食店營本宮藏は高層な家屋を建築したばかりであるが營業不振のために夜逃をなして附近の者をアツと驚かせたが此の外借金のやり繰りがつかないために夜逃する者が非常に多く殊に最近貸屋が增加した事なども不景氣さを物語つてゐるが消息通の語る處に依ると平町の大通りである一丁目から五丁目までの間で自力で營業を續けてゐる者は僅なもので其大半は何れも資産より借金の方が多いとの事である由來平町は商業地で炭礦、漁村、農村等の景氣が直接平町の景氣を支配してゐるのであるが炭礦はこれ亦不景氣のドン底と言つてよい程で鰯り濟の豐漁を添へられるが之も一昨年の不漁の打擊を恢復する程度のものであり農村は疲弊してゐるので其間にある平町の不景氣なのは無理もないが他に移住する者が增加した事は未曾有の現象であると

磐城青年同盟

四倉町に本部を置く磐城青年同盟會は十月三日午前十時より大野村玉山湯の澤にて第四回總會を開き終つて松茸狩りをなす筈

磐新塔

石城郡内郷村磐城炭礦ではかねて工費六十餘圓を投じて新斜坑住吉坑を開鑿中であつたが愈々工事も進捗し坂道は約五千尺掘進、十月中旬にて着炭する事になつた、礦區は内郷村大字御厩を中心として約十萬坪といはれ而も炭質が良好なので頗る有望視されてゐるが同炭礦では廢坑となつてゐた綴坑の排水をもなしてゐるのでこの住吉新坑の着炭と綴坑の復活は磐炭甦生の二大事業と見られ好間村古河炭礦新坑計劃も既報の如く東洋第一の模範的新裝を施すべく既に着手する一方湯本町入山炭礦の新坑計劃と合せて常磐炭礦界が再び好況時代を向へる準備とも見られてゐる

減つた移出米

去年より三千五百俵

平支所の調査

平農産物檢査所の本年四月一日から九月廿四日までの白米移出檢査俵數は六千五百七十二俵にてこれを昨年の同期間九千九百四十九俵に比すれば三千三百七十九俵を減じてゐるこれは偏に昨年來の米價が一般に下落し石城郡内の米が移出されなかつたゝめと觀られてゐる右に付安島所長は語る「移出檢査米が極度に減少したことは昨年來より米價が不落した結果石城茨城の各炭礦に湯本から供給してゐた粳米の殆んど全部が一般米價と平衡を得たゝめに利益が取れない關係上移出が停止の狀態を續け一面同地方が貨物自動車の交通發達しその影響は汽車積移送を極度に減少したこれによつて郡內の自給關係は平年と變らないが同郡の産米改良上に考慮を要する點が多々あるものがある

新築落成
耳、鼻、咽喉科
氣管食道科（專門）
平町南町（舊診療所向電一七〇番）
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

内臓外科
整形外科
骨關節外科　專門　藤本順
産科
婦人科　院長　木村寅次郎
平町新川町
外科 婦人科　木村病院
電話一六四番

内臓外科
外科一般
花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同　優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋　山崎合名會社
電話一〇番

レコードハ此のマーク！を

肉聲のビクターレコード
販賣店　會田時計店
平町四丁目（電話三六三番）
店員募集